

季刊ジャネット Ja-Net

スリーエーネットワーク

January 2026

No. 116



柳川雛祭り(さげもんめぐり)

Contents

- 4 あちこち日本語ご紹介
東京都 文京区
- 5 みんなの“日本語View from the Other Side”
ナディア・ビエリツカ(ポーランド)
- 6 教材紹介
『JLPT読解N2 ポイント&プラクティス』
『みんなの日本語 初級 第3版』発行のお知らせ
- 8 インフォメーション

巻頭寄稿

福祉を「文化」として見る

—アジアの仏教の視点から見たソーシャルワーク—

淑徳大学大学院総合福祉研究科
教授 郷堀ヨゼフ

はじめに

社会福祉という学問と実践は、一般にはヨーロッパや北米で発展してきたものと理解されています。実際、その背景には産業革命による都市化や工業化があり、人々が家族や地域から切り離され、生活の土台を失っていった歴史があります。こうした問題に対して、

支援制度や援助の技術が整えられ、現代の社会福祉の基礎になりました。

しかし、アジアの仏教国に目を向けると、福祉は違うかたちで育ってきました。寺院を中心に、人々が自然と助け合い、困っている人をゆるやかに支える文化があったのです。病気の人に寄り添い、食べ物を分け合い、ときに旅人に宿を提供する。制度よりも先に「ごく当たり前の日常としての支え合い」がありました。私たちはこれらの活動を「仏教ソーシャルワーク」と呼び、研究

の入口としました。私が「仏教ソーシャルワーク」を研究テーマに選んだのは、日本の福祉がこれから進むべき道を考えるうえで、文化という足元を見つめ直す必要があると強く感じたからです。

仏教ソーシャルワークとは

仏教ソーシャルワークの一番の特徴は、「生きとし生けるものすべて」を支援の対象としている点です。人だけではなく、動物や植物、自然環境までも「仲間」として見つめる姿勢がありま

す。背景にあるのは、「縁起」の教えです。「すべての事象はつながり、互いに影響し合って存在する」この考え方が、福祉の視野を大きく広げています。

スリランカ、ブータン、タイなどで見てきた実践の場は寺院や僧侶、仏教徒の活動を中心に広がり、教育や医療、子ども・高齢者支援、環境保全まで多岐にわたります。アジアの多くの地域ではこれらが特別な支援活動ではなく、生活に根ざした自然な行いとして受けとめられています。ソーシャルワーカーという専門職がいなくても、地域の文化そのものが「支え合いの仕組み」を生み出してきた点が特徴的です。

この実践の根にある価値観が、「大慈(いつくしみの心、あるいはやさしさ)」と「大悲(共感あるいは他者の苦しみに寄り添う心)」です。相手を助けるというより、共に歩み、共に悩み、共に生きるという姿勢が大切にされています。そこには上下関係よりも対等な横のつながりがあり、相互扶助や共生という考え方に自然につながっています。

また、仏教ソーシャルワークは、外側の問題(貧困や差別、社会的排除)だけでなく、内面の苦しみや不安にも目を向けます。瞑想や対話を通じて心を整え、本人が自分らしく生きていける力を取り戻すことも重視されています。これは「苦(dukkha)に向き合う」という仏教の姿勢そのものが福祉の実践に生かされていると言えます。

仏教ソーシャルワークの目標は、すべての生命の平和と幸福です。誰か



ASEAN国際会議(2017)で仏教ソーシャルワークのコンセプトを提案

社会的課題を多く抱える東南アジア諸国で、仏教が果たし得る役割や可能性を各国の参加者と議論した



ネパールで見た仏教・福祉・教育の現場

2024年、カトマンズでのフィールドワークの一場面。ヒマラヤ地域の子どもたちに、半世紀近く無償で教育を提供してきた学校(トラング・タシ・チョリング寺院が運営)を訪問した。仏教の精神が福祉や教育とどのように結びつき、地域社会を支えてきたのか現場で実感

一人の幸せだけではなく、互いに影響し合う「私たち全体の幸せ」を願う。その視点は、環境問題や多文化共生が問われる現在の社会に、あらたな方向性を示してくれています。

対象は人類に限定しない

興味深いのは、仏教ソーシャルワークにはアジア各国に共通する特徴がある一方、その地域ごとの個性も豊かだ

ということです。どの国にも「生きとし生けるものすべてを大切に」という根本の姿勢があります。「縁起」という考え方は、すべての存在が互いに影響し合い、つながりのなかで成り立っているというものです。だからこそ、誰かの苦しみは自分にも関係があり、自然が傷つけば、いずれは自分たちの暮らしにも影響する。この考え方は、気候変動や環境危機を前にしている現代社会において、ますます重要な意味を持っています。

これをわかりやすく教えてくれたのが、スリランカのある小学校での出来事です。地域の小学生たちがマンダローブの苗を一生懸命植えていた時、「何をしているの?」と尋ねました。する

小さな思いやりの積み重ねが共生社会を築く



寺院がつなく命の支援

コロナ禍で帰国できず、仕事や住まいを失ったベトナム出身の技能実習生たちが、埼玉県の大恩寺に身を寄せていた。彼らのために、新潟県産のお米を届けた。大恩寺のティック・ナム・チー住職、白山神社(新潟県)の岩片克己宮司とともに

と彼らはあっさりと、「社会福祉活動です」と答えたのです。日本で“社会福祉”と言えば、人の生活支援や制度のイメージが強く、植林活動と直結して考える人は多くありません。しかしスリランカの子どもたちは、マングローブを「社会の仲間」だと捉えていました。マングローブが成長すれば、魚が増え、漁師さんたちの生活が安定する。さらには津波から村を守り、災害を減らす。そのマングローブを支えることは、つまり「自分たちの生活を支えることにつながっている」。彼らにとってマングローブは、人と同じく社会を共につくる存在なのです。

その自然な感覚に、私は深い感銘を受けました。仏教ソーシャルワークの核心である「縁起」が、小さな子どもたちの感覚としてしっかり根づいている。それは、人間社会だけにとどまらず、自然との共生を当たり前のもとして受け入れる文化の力でもあります。この経験は、私の研究を大きく方向づける出来事となりました。

日本での事例

日本にも、このような仏教的視点をもつ福祉の実践が数多く存在します。コロナ禍が広がったとき、職を失った外国ルーツの若者たちが、日本で生活困難に陥りました。母国への帰国手段がなくなり、収入も住まいも失い、生活保護の申請すらままならない。そんな状況に追い込まれた彼らを受け入れたのが、地域のお寺でした。「駆け込み寺」として食料を提供し、医療につなぎ、帰国のための支援も行いました。

また、お寺を拠点とした子ども食堂、被災地支援や東京の浅草での路上生活者支援など、現代日本でも多様な活動が静かに広がっています。認知症の方やその家族(ケアラー)を支える取り組みに力を入れる寺院も増えていきます。1990年代から続く長岡西病院の「ビハラー病棟」は、仏教を基盤としたターミナルケアの先駆けとして注目され、患者さんの心に寄り添うケアのあり方を提案してきました。

こうして見渡すと、日本にも仏教ソーシャルワークの芽は数多く息づいており、私たちが気づかないだけで、身近に豊かな実践が存在しているのです。

目指すところは……

私の研究が目指すのは、福祉を制度や技術だけでなく、「文化」という視点から論じることです。福祉も文化も、完成形があるわけではなく、社会や人々の暮らしとともに変わり続けるものです。そのプロセスの中で、誰かの行動がまた誰かに影響し、支え合いが広がり、みんなが少しずつ幸せに近づいていく。私は、そのような成長の循環に寄り添い、社会に貢献できる研究を続けたいと思っています。

近年、外国ルーツの人々が日本の福祉を支える場面が増えてきました。文

化の違いはときに摩擦になることもあるでしょう。「支え合い、未来に向けて共に生きる」そのためには、互いの文化背景を理解・尊重し、手を取り合って歩みを進めることが大切です。これは多文化共生の本質であり、仏教の「大慈」「大悲」の精神にも通じます。「人類という枠さえ超えて、すべての生き物と調和して生きる」という大きく豊かな視点は、現代社会が失いかけている価値を私たちに思い出させてくれます。

共に生きる社会を実現するために

仏教ソーシャルワークは、特別な活動ではありません。日々の暮らしの中で、人や自然に向ける小さな思いやりの積み重ねです。その延長線上にこそ、私たちが目指すべき共生社会があります。これからも、アジアの文化に根ざした福祉の知恵を丁寧に掘り起こし、日本の現場とつなげていきたいと思えます。読者の皆さんの身近な場所にも、仏教のみならず、様々な思想や文化を基盤とした土着のソーシャルワークの種が静かに育っているはずで、その種が芽を出し、社会の未来を温かく照らす光になることを願っています。



郷堀ヨゼフ
(Gohori, Josef)

淑徳大学大学院総合福祉研究科教授。プラハ、カレル大学での日本文化研究から出発し、文化人類学を基盤としながらターミナルケア及び高齢者福祉の研究を始める。医療福祉の社会的・文化的背景を主な研究対象としながら、アジアの12の国と地域で実施した仏教ソーシャルワークに関する国際共同研究プロジェクトを統括。研究叢書「仏教ソーシャルワークの探求」を監修。2024年、「福祉人類学」という新たな領域を提案。主な著書は『生者と死者を結ぶネットワーク』(上越教育大学出版会)、『福祉人類学試論』(淑徳大学長谷川仏教文化研究所)。

あちこち日本語ご紹介

東京都 文京区

“卒業後”を生きる学習者のために

ラボ日本語教育研修所

黒崎誠 黒崎亜美

ラボ日本語教育研修所は、現在12ヶ国から約150名の留学生が通う日本語学校です。下町情緒の残る谷中銀座の傍に位置し、商店街の皆さんには学生の日本語タスク(買い物、インタビュー等)にご協力いただくなど、地域と日常的に交流を重ねています。こうしたつながりを大切にしながら、「地域社会に貢献できる学校」であることを目指しています。

さて、当校は1987年の創立以来、「学習者の“卒業後”を見据える」という理念を大切にしています。ゴールを「卒業」ではなく、その後に学習者が参画するコミュニティに置くこと。学習者が自分の言葉で考え、他者と協働しながら生きていく力を身につけること。学習者を「支援される対象」ではなく、それぞれが活躍する社会の一員として捉えること。この視点が根幹をなしています。

理念を支える「運用重視」

理念を支えるキーワードが【運用重視】です。運用とは「便利なフレーズを覚えて使うこと」ではなく、自ら情報を得、相手に伝え、相手からフィードバックを受けて表現を修正していく——そうした一連の言語行動だと考えています。そのため我々は、初級から、談話構成を意識した教授を重視し、活動に課題達成→振り返り→自己評価→フィードバックという流れを作ること、学習者自らが学びを俯瞰する力を育てることを目指してきました。

一方で、「どのように教えるか」については、学習者層の変化に応じて大きく変えてきました。当初は構造シラバスの教科書(オリジナル)を使用していましたが、それに限界を感じ、活動を重視した初級教科書を開発、活動中心の授業展開に大きく舵を切りました。その結果、学習者の満足度は上がり、我々も手応えを感じました。しかし、授業が活動偏重になることで言語形式の学習が手薄になり、学習者の日本語

が文構造の崩れたものになっていることに気づきました。運用に目を向ける「功」と、活動に特化しすぎる「罪」を、私たちは痛感することになりました。

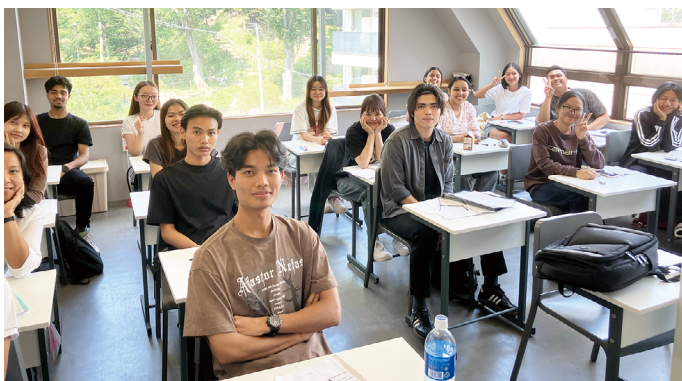
多次元シラバスの構築

そこで私たちは、「どのレベルで何が本当に『できる』と言えるのか」を、改めて精査しました。その結果、初級において最低限保証すべき文法・テキストの範囲が明確になり、「文法をしっかりと教えること」の重みを再確認するに至りました。文法を教えるとは、説明することではなく、運用を支える骨格として学習者に意識化させる営みなのだ、という認識も共有されました。

こうした経験を踏まえて私たちが注目したのは、多次元シラバスです。『日本語初級 大地』を【構造シラバス】の柱とし、これまでの教育実践から得られた知見を基にした【機能シラバス】【場面シラバス】を重ね、多次元シラバスを組み立て、カリキュラムを再構成しました。これにより学習の土台が共有され、教育の質が安定しました。我々は、この多次元シラバスが「日本語教育の参照枠」を現場レベルで具現化する一つの方法だと考えています(多次元シラバスの実践紹介は、ぜひ別冊「アイデアの宝船」をご覧ください)。

すべては“卒業後”のため

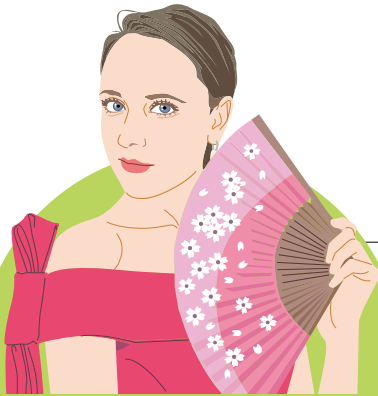
当校は「理念として変わらないもの」と「方法として柔軟に変えていくもの」の両立を模索し続けてきました。構造シラバスの教科書(『大地』)への回帰は過去への後退ではなく、運用重視と文型指導を統合し、“卒業後”を生きる学習者を支えるための、次の一歩であると考えています。



中級クラスの学生たち。授業の途中に、ちょっとお邪魔しました

みんなの“日本語View from the Other Side”

このコラムでは、学習者や日本語に携わる方の視点から話題をお届けします



ナディア・ビエツカ

ポーランド、シュフィドニツァ生まれ。2016年、コペルニクス大学日本学科に入学。2019年、同大学大学院修士課程へ進む。2021年「日本のアイドルとファンの関係」をテーマとする論文を執筆し、修士号を取得。現在はオランダのIT会社で採用担当として勤務。

illustration 内山洋見

日本のアイドル文化を研究

みんなの日本語』で学びました。大学は文法、漢字、日本文学、日本史など毎学期10科目以上の試験があり、大変でした。試験の合格ラインは厳しく、60人いた同級生は1年で30人に減りました。他学科の学生が長期休暇を楽しんでいるときも、私たちは「勉強しなくては!」と思ったものです。

アイドルとファンの関係

大学・大学院では「日本のアイドルとファンの関係」に興味をもち、研究テーマに決めました。主に男性ファンがどのように女性アイドルを応援しているか、アイドルはどのようにファンを惹きつけようとしているか調査しました。

アイドルはファンに“理想の存在”として見られ、イメージを守るため「恋愛禁止」などのルールでファンに「自分だけの存在」という気持ちを持ってもらうよう努めます。これは、ポーランドでは見られない特徴です。アイドル業界もビジネスであり、ファンとの関係を保つことが利益につながっているんですね。

ファンは「推しを支えたい」「人気を上げてあげたい」という気持ちがとても強いです。「推し活」で、生きがいを見つける人も多く、推しのグッズ・各地のイベントなどにたくさんお金を使うのは、この気持ちによるものです。

ファンの働きかけがアイドルの人気や成功に強く結びついているのも、日本のアイドル文化の特徴です。

日本のアイドル文化を体験

大学院生のときはコロナ禍で、現地調査ができませんでした。日本のアイドル文化を確かめに、2024年に夫と秋葉原の地下アイドルのライブに行きました。その結果は……、調査通りでした。ファンの95%が男性で、大声で一生懸命アイドルを応援しています。アイドルは、ファンとのやり取りを楽しんでいる様子で、親しく話しかけ、ファンへ感情をこめて感謝の気持ちを伝えていました。

それぞれの子にシンボルカラーがあり、シンボルカラーのペンライトを振ると、その子が反応してくれます。これに気づいた夫は「オレンジの子は可愛いのに、全然歌う機会がもらえていない! この子を応援するべきだ!」と、アツと言う間にファンようになってしまいました。「ペンライトの色を変えて、推しが寂しそうな顔を見ると辛い。無意識のうちにあの子の成長に貢献したいという気持ちになった。」ライブの後、夫が感想を聞かせてくれました。

ライブが終わり、帰るとき「お手洗に行きたい」と思いましたが、長い列がまったく進みません。なんとこれは「退場する人の列」ではなく「握手会の列」でした。日本のアイドル文化とそのパワーを全身で感じた1日でした。

日本が大好き

「日本が大好き。だから、歴史や伝統文化、ポップカルチャーや社会問題まで“日本のことは何でも知りたい”」この気持ちが私の日本研究の原動力です。これからも大好きな日本を知る努力を続けていきたいです。

日本語学習のきっかけ

小学生のときアニメ『NARUTO』『シャーマンキング』で日本語に触れ、「わあ、この言葉きれいだな。面白いな」と感じ、興味を持ちました。声優になることが夢になり、「なんで日本語を勉強したいの?」と聞かれると「日本に行き、声優になりたいから!」と自信たっぷりに答えていました。中学生になって「将来、大学の日本学科に通う」と決めました。

厳しい大学生活

高校時代は、受験に大切なポーランド語(国語)と英語学習に力を入れ、努力の結果、コペルニクス大学日本学科に合格できました。大学で本格的に日本語学習をはじめ、初級は『み

『JLPT読解N2 ポイント&プラクティス』

清水知子・福岡理恵子・熊田道子 著

B5判 84頁 別冊72頁(予定) 1,650円(税込) 5月発行予定

ポイントを押さえて、効率的にN2レベルの読解力を身につけよう

横浜国立大学・東京農業大学・防衛大学校

非常勤講師 清水知子

日常的な話題に絞られていたN3とは異なり、日本語能力試験N2レベルの読解では「幅広い話題について書かれた新聞や雑誌の記事・解説、平易な評論」などで示された「明快な論旨」や、一般的な話題についての「話の流れや表現意図」をつかむ力が求められます(日本語能力試験公式ウェブサイトより)。つまり、抽象的な内容も多少含んだ文章が、どのような文脈(論理の流れ)の中で、何を伝えようとしているのかを読み取らなければならず、語彙力、文法力だけでなく、まとまりのある文章を読み解く読解ストラテジーが必要です。本書は、学習者が無理なく読解ストラテジーを身につけていけるよう、さまざまな工夫を取り入れました。

本書の特長

- ① すべての設問がJLPTの出題形式に合わせてあり、自然に試験スタイルに慣れていける。
- ② 読解において注意を払うべきポイントが、各回でまとまっている。
- ③ 別冊「解答・解説」には答えに至る道筋がわかりやすく図解されており、独習者にも、教室で指導に当たる先生方にも便利である。

本書の構成

- 本冊(15回分の問題パート、1回分の模擬試験)

まず、読解ストラテジーの意識化を図ります。問題パート1回目～5回目では「文章を正確に読み取るポイント」として、「指示詞」「省略」「理由(2回)」「下線部の意味」を、6回目～8回目では「文章全体の意味をつかむポイント」として、「対比」「言い換え」「疑問提示文」を取り上げました。

次に、「いろいろなタイプの文章」として、統合理解(複数の文章の比較)、長文、お知らせ文、情報検索を扱いま

す。8回目までの学びを生かして長めの文章に慣れるとともに、スキヤニングも導入します。

最後に模擬試験(1回分)があり、本試験と同じ構成の問題で実力をチェックできます。

- 別冊(解答・解説:英語、中国語、ベトナム語訳付き)

問題解説も充実しています。まず正答を示し、誤答選択肢の多くに「なぜ間違いであるか」の説明をつけました。次に問いの文を取り出し、解答のポイントに注目させてから、正答の根拠となる本文部分を図解することで、文脈や重要点が視覚的に把握できるようにしました。

本教材を利用した教室での取り組み例

問題パートでは、新しい文章のタイプやストラテジーを学ぶ際、導入として忍者先生が読みのポイントを示しています。学習者には、まずここを意識させ、制限時間を設けて問題に解答させるとよいでしょう。辞書の使用や教師への質問はさせずに取り組ませることで、文脈からの類推力が養成できます。また、解答後に、答えを選んだ理由を学習者同士で説明しあう時間を設けると、読解力の強化につながります。時間に余裕があれば、読んだ内容に関して意見を述べ合ったり、読んだ文章を要約したりさせると、理解の定着が促せておすすめです。指導にあたる先生は、学習者の理解度に応じて、別冊を参考に解説してください。

本書を活用しながら読解力を高めるとともに、幅広い話題に触れて読む楽しさも味わっていただけるようお願いしております。



「みんなの日本語 初級 第3版」発行のお知らせ

改訂のご案内

現在の状況に合うように会話場面・語彙・表現の見直しを行いました。文法シラバスや各課の構成に大きな変更はありません。

『第2版』からの変更点(語彙・表現)、「会話」のタイトル、「問題」に収録されている対話トピック・読み物と関連タスクの一覧表などはウェブサイトからご覧いただけます。



シリーズ発行予定

* 税込み価格

みんなの日本語 初級I 第3版	みんなの日本語 初級II 第3版
好評発売中	3月発行予定
本冊 2,750円	本冊 2,750円
翻訳・文法解説 英語版 2,200円	4月発行予定
2月発行予定	翻訳・文法解説 英語版 2,200円
翻訳・文法解説 中国語版 2,200円	7月発行予定
翻訳・文法解説 ベトナム語版 2,200円	翻訳・文法解説 中国語版 2,200円
3月発行予定	翻訳・文法解説 ベトナム語版 2,200円
翻訳・文法解説 ネパール語版 2,200円	翻訳・文法解説 ネパール語版 2,200円
翻訳・文法解説 ビルマ語版 2,200円	翻訳・文法解説 ビルマ語版 2,200円
標準問題集 1,100円	翻訳・文法解説 シンハラ語版 2,200円
4月発行予定	9月発行予定
翻訳・文法解説 シンハラ語版 2,200円	標準問題集 1,100円

音声の提供方法

『第3版 本冊』の各課「会話」「問題」および、「はじめに(『初級I』のみ収録)」の音声は当社ウェブサイトおよび音声アプリ(iOS/Android)より、無料をご利用いただけます。「文型」「例文」「練習A」「練習B」「練習C」、および『第3版 翻訳・文法解説』各課の「ことば(新出語彙)」の音声は当社ウェブサイト(ストリーミング再生)、およびアプリ内課金で販売いたします。

初級I 第3版 音声 Web ver. 全25課5,500円/各課220円

初級I 第3版 音声(アプリ) 全25課5,500円/各課220円

なお、『初級II 第3版』に対応する、音声データの配信・販売開始は2026年3月を予定しております。

以上は2026年1月25日時点の情報です。シリーズ刊行予定・改訂による変更点などの最新情報は、ウェブサイトですぐお知らせいたします。ご不明点につきましてはウェブサイトをご覧ください。『第3版』刊行後も、当面の間、現行版の『第2版』は継続して販売いたします。



すべて税込み価格です

本

改訂版 日本語能力試験N1 模擬テスト〈4〉	1,210 円	好評発売中
改訂版 日本語能力試験N3 模擬テスト〈1〉	1,100 円	好評発売中
JLPT文法N2 ポイント&プラクティス	1,540 円	2月初旬発行
みんなの日本語 初級I 第3版 翻訳・文法解説 中国語版	2,200 円	2月発行予定
みんなの日本語 初級I 第3版 翻訳・文法解説 ベトナム語版	2,200 円	2月発行予定
みんなの日本語 初級I 第3版 翻訳・文法解説 ネパール語版	2,200 円	3月発行予定
みんなの日本語 初級I 第3版 翻訳・文法解説 ビルマ語版	2,200 円	3月発行予定
みんなの日本語 初級II 第3版 本冊	2,750 円	3月発行予定
改訂版 聴くトレーニング <聴解・聴読解>基礎編 日本留学試験対応	2,420 円	3月発行予定
みんなの日本語 初級I 第3版 翻訳・文法解説 シンハラ語版	2,200 円	4月発行予定

セミナー

タスク主導型教材が引き出す「対話」を通じた中級レベルの日本語学習-『タスクベースで学ぶ日本語 中級3 Task-Based Learning Japanese for College Students』を使って-

講師：澁川晶

日時：3月22日(日) 15:00~17:00

会場：オンライン (Zoomを使用)

対象：日本語学校、専門学校、大学等で

日本語を教えている方

定員：250名 参加費：無料

締切：3月16日(月)

定員になり次第締切

詳細・申込み

ウェブサイトをご確認ください。

<https://x.gd/Qinnz>



お知らせ

教材紹介動画

ウェブサイトで、教材の特長や構成、使い方を著者が紹介する動画を配信中。新たに『外国人のための 日本語で学ぶライフプラン -健康で安心して暮らすために-』『JLPT文法N5 ポイント&プラクティス』の動画を公開しました。教材選びや、授業の進め方のヒントに、ぜひご覧ください。

<https://x.gd/DVSfP>



● 文法項目が未習の場合

項目	リストパート	導入・解説	35分
◆問題パート-リストパート 20問×2コマ	4分5分	5分	5分
◆はじめ(解答時間12分) 3問×2コマ	問題パート 「かくにん」	解く	5分
◆模擬テスト(解答時間20分) 1問×2コマ 社 4コマ(1コマ=45分)	問題パート 「かくにん」	解説	20分
	問題パート 「もんだい1・もんだい2」	解く	25分
	問題パート 「もんだい1・もんだい2」	解説	25分

※1~4回目は1~1.5コマで、1回分を学習できる。残り時間で会話練習等の活動を実施してもよい。

『みんなの日本語 初級 本冊』資料

『みんなの日本語 第2版 本冊』(初級I/初級II)の資料「各課 問題の『読み物』タイトルと内容、関連タスク」を公開しました。各課の「問題」に収録されている読み物と、

読み物に関連して設定されているタスクを一覧表でご確認いただけます。授業づくりにご活用ください。『みんなの日本語 第3版 本冊』(初級I/初級II)の資料も公開中。『第3版』の資料では、各課「問題1(聴解・応答練習)」に設定されている「対話トピック」も一覧に加えました。

<https://x.gd/KA13Y>



音声ウェブ配信

『みんなの日本語 第2版 聴解タスク』(初級I/初級II)および、『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解』(中級/中上級/上級)の音声、ウェブサイトからご利用いただけるようになりました。

<https://x.gd/79mtF>



表紙のイラスト

「さげもん」は福岡県の伝統工芸「柳川まり」に縁起物の布細工を組み合わせた吊るし雛。お雛様、お内裏様や晴れ着姿の女の子たちが、さげもんで彩られた水路を舟で巡る「水上パレード」が柳川雛祭りの見どころです。

季刊ジャネット

Ja-Net No.116

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2026年1月25日発行

● 発行人 藤崎政子
● 発行所 (株)スリーエーネットワーク
Ja-Net 編集室
〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4
トラスティ麹町ビル2F
TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729
E-mail: sales@3anet.co.jp
<https://www.3anet.co.jp/>

● デザイン パーシック 畑中 猛
● イラスト 竹永絵里 (P.1, 8)
● 印刷 (株)マイナビサポート
© 2026 by 3A Corporation
Printed in Japan (禁無断転載)

「Ja-Net」をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。次号は2026年4月25日発行予定です。